

平成23年10月19日

浜松市長 鈴木 康友 様

浜松市議会 市民クラブ  
会長 丸井 通晴

## 浜松市戦略計画2012に関する政策提言書

浜松市議会市民クラブとして、先に示されました「浜松市戦略計画2012の基本方針」及び「平成24年度予算編成」を受けまして、平成24年度の浜松市の政策の推進並びに市政運営に関する提言を致します。

私たち市民クラブは、鈴木市長が選挙で有権者に示された政策公約「マニフェスト」を就任後に「工程表」に基づき実現に向けて着実な政策推進に取り組まれ、結果を毎年度毎に自己評価し市民に公表されてきた、政治姿勢と政策の実現を高く評価しており、二期目のマニフェストの考え方と政策テーマについても賛同し、実現に向けて継続的に協力してまいります。

戦略計画2012は第二次総合計画の都市経営戦略を進める2年目の戦略計画であり、中期目標の達成に向けた政策課題を着実に進められることを期待するものですが、東日本大震災の復興、世界的な金融不安による経済危機の懸念など、浜松市を取り巻く環境は不透明で厳しいものと認識する必要があります。特に被災地への継続的な復興支援や浜松市の大規模地震などに備えるハード・ソフト両面での防災・減災対策などに新たな財政需要が必要となると考えます。これらの環境変化に対応するためには、地域の経済力を強化する戦略的な政策・制度の立案と行財政改革のレベルを上げスピード感を持って断行していくことが不可欠であると考えます。

また、市民クラブのメンバーは、まじめに働き、社会的義務を果たして、浜松市の地域経済や社会を根底から支えている勤労者の声を市政に反映させる役割を担って議会に出てきています。勤労者や家族が求める、雇用・福祉・教育・生活環境などの政策・制度の課題の実現に向けて、会派として継続的に取り組んでまいります。

以上、会派としての現状認識と基本的な姿勢及び考え方に基づき、以下各項目について具体的な政策提言をお示しいたします。

### 【提言の構成】

#### 1. 重点戦略について

- ①重点戦略1 未来を拓く“新・ものづくり”
- ②重点戦略2 豊かな心と生きる力をはぐくむ・子どもの未来
- ③重点戦略3 安全と安心を人から人へ・活発な地域力
- ④重点戦略4 地域にやさしい持続可能な社会
- ⑤重点戦略5 快適が感じられるくらしの満足
- ⑥重点戦略6 いきがい実感・健康づくり
- ⑦重点戦略7 郷土に誇り・活力あるまち

#### 2. 都市経営の考え方について

## 1. 重点戦略について

### (1) 戦略1：未来を拓く“新・ものづくり”

#### ①多様な産業の創意と工夫の結集による新産業の創出

- \*新産業の創出については、新たに策定される「はままつ産業イノベーション構想」による事業計画の実現可能性を精査して、効果的な支援施策を立案すること。
- \*既存の企業の市外流失を防ぐことも含め、企業立地を誘致するためのハード・ソフト両面でのインセンティブの仕組みを都市間競争に勝てるレベルで導入すること。
- \*農業、工業、商業、情報産業などが融合して、新たな産業を生み出すような土地利用など基盤整備やシステムづくりに取り組むこと。

#### ②新たな技術と活用と6次産業化による農林水産業の産地力強化

- \*企業やNPOなどが連携や参入が可能となるような、農地利用や事業権限に関する規制を大幅に緩和する政策を導入すること。

#### ③だれもが夢を持って働き、自立した生活を送ることができる雇用の創出

- \*雇用政策については、地域経済の実態を的確に把握した上で、中小企業の経営維持・雇用確保のための経済対策及び、緊急雇用対策を絶え間なく実施すること。特に、障がい者や母子家庭、在住外国人及び未就労若年者など就労弱者への支援を強化すること。
- \*セーフティーネットとして機能する、中長期の総合的な雇用対策の施策計画の策定と地域の産・学・官が連携した推進体制を構築すること。

### (2) 戦略2：豊かな心と生きる力をはぐくむ・子どもの未来

#### ①安心して子どもを生み育てられる環境づくり

- \*保育所の待機児童解消については、潜在的な需要も予測しながら早期に待機児童ゼロを実現すること。併せて幼保一元化が促進される制度改革を国に強く求めること。
- \*放課後児童会の待機児童解消対策とともに、指導員の資質向上や運営方法の改善を図ることや、大規模校での放課後の子どもたちの居場所づくりについて検討すること。
- \*保護者から切実な要望がされている、特別支援学校の高等部の拡充については県に早期の実現を強く求めるとともに、市独自の対応策も検討すること。

#### ②たくましく生き抜く豊かな心と確かな学力の育成

- \*小学校1・2年生の30人学級の早期実現に向けた具体的な実行計画を策定すること。また、必要な教員の配置を県に要請するとともに、講師の採用など市としても対応すること。
- \*発達障がい児、在住外国人、理科教育などの教育支援指導員・補助員の増強のために、教職員OBやNPO、企業などから人材を求められるネットワークを形成すること。また、人選及び配置及び勤務条件・処遇については、各学校のニーズや地域特性に対応すること。

#### ③子どもや青少年の健やかな成長を地域で支える社会の形成

- \*地域の青少年健全育成のネットワークに、官民の事業所や社会奉仕団体・NPOなど現役世代（特に父親）の参加を促す仕組みを設けること。

### (3) 戦略3：安全と安心を人から人へ・活発な地域力

#### ①思いやりの心をはぐくむ福祉の地域づくり

- \* 地域包括支援センターの相談機能を強化し、要支援・介護認定の抑止と施設介護待機者の在宅支援サービス利用の促進を図ること。
- \* 地域密着型サービス施設の整備については、民間企業の新規参入を促すとともに、事業実態や経営状況についての監査機能を強化すること。
- \* 障がい者の自立支援・社会参加の促進については、就労機会の維持・拡大に向けた官民一体で授産施設等を支援する仕組みをつくること。特に行政が率先して、行政サービスの委託や公共施設での販売所の提供など具体的な支援を拡大すること。

#### ②防災・減災の地域力づくり

- \* 大規模地震による津波や突発的な集中豪雨など災害発生時に、全ての住民が速やかに避難行動が出来るような、情報伝達と避難誘導する仕組みを早急に策定し、周知徹底すること。
- \* 危機管理体制及び機動力を一段と強化するため、危機管理監を市長直轄にして指揮権限を集中するとともに、区役所の危機管理体制を明確にして住民への情報伝達や指示を徹底させる。

#### ③防犯と交通安全のまちづくり

- \* 政令指定都市交通事故ワーストワンの汚名返上に向けて、目標設定と具体的な行動計画を策定するとともに、事故原因とその対策に関する専門的な分析と研究を進めること。
- \* 通学路・通勤路の安全対策は最優先課題であり、警察や学校、地域住民、企業と一体となって具体的で恒久的な対策をハード・ソフト両面で集中的に実施すること。

### (4) 戦略4：地球にやさしい持続可能な社会

#### ①地球温暖化対策とクリーンエネルギー導入の推進

- \* 今夏の緊急的な節電対策の成果と課題を精査して、日常生活や経済活動に過大な負担を与えることのない恒常的な省エネルギー対策を再構築する。
- \* 再生可能エネルギーの導入と分散型供給電源の設置促進については、国内外の専門機関や国内関連産業及び地域の企業関係者など産・学・官の英知を結集して、浜松地域の特性に合致した経済合理性にも適う仕組みを目指すこと。
- \* 緑のカーテンなど緑化推進事業については、専門家の派遣などで、節電や省エネの効果が確実に現れるような、規模拡大と質的なレベルアップをはかる施策を本格的に導入すること。

#### ②ごみ減量と3Rの推進

- \* ごみ減量とリサイクルの必要性を、ごみ処理に係る総コストと処理施設の耐久性や立地困難度など詳細な情報を示し、受益者負担の必要性を含めて理解の促進をはかること。
- \* 家庭ごみの排出方法と回収方法については、全市的に公平な負担レベルと利便性の向上の視点で市民の合意形成を醸成しながら導入すること。

#### ③生物多様性の保全と持続可能な利用の推進

- \* 佐鳴湖や浜名湖の水質浄化、遠州灘海岸及び天竜川水系での自然環境保全の取り組みなどを、様々なPR媒体を活用して情報提供することで理解促進と活動への参加者の拡大を図ること。

## (5) 戦略5：快適が感じられるくらしの満足度

### ①市民の共感が得られる魅力的な都心の創出

- \* 駅前の新たな商業施設、既存の商店街と文化施設や史跡及び公園や街路などを回遊する歩行ルートを市民から公募して策定するなど、具体的な事業を進めること。
- \* 市内外の企業や事業者、市民、NPO、市民団体などに、年間を通じた都心部でのイベントを公募し、企画・運営を行うこと。(100夢事業の都心にぎわいづくり版)
- \* 駐車場に関しては、中心部での渋滞を解消し、利便性が高まる仕組みづくりを構築すること。併せて、自転車や二輪車の駐輪スペースをより利便性の高い場所に確保すること。

### ②「幸せを実感する山里暮らし」の実現

- \* 移住・定住を促進するために、空き家などの売買・賃貸及び改修などへの支援制度や市内外の移住希望者への情報コンテンツの充実への支援を行うこと。
- \* 農家民宿やクライガルデンや田舎暮らし体験など地元の住民や団体が行う事業や活動のプロモーションを関係組織と連携して支援すること。

### ③地域を結ぶ公共交通ネットワークの充実

- \* 公共交通機関での通勤・通学を誘導するために、鉄道駅や主要バス停付近でのパーク&ライドを公共施設の駐車場や商業施設の駐車場などを活用して設置すること。
- \* 公共バスや自転車・二輪車の専用・優先道路の設定を拡大して、通勤通学時間の確保及び交通安全対策を促進すること。
- \* 公共交通空白地域対策は、バス事業者のみならず、タクシーや事業者やNPO、住民福祉機関などとネットワークを構築して、利用ニーズや地域特性に応じた柔軟な方策を検討すること。

## (6) 戦略6：いきがい実感・健康づくり

### ①体を動かす機会の創出

- \* 日常生活で気楽にスポーツ・軽運動ができる場づくりでは、既存の街路や公園を利活用してのウォーキングコースやジョギングコースを整備したり、河川敷や緑地の運動公園化や、企業や民間のスポーツ施設の開放を働き掛けるなど、様々な手法を検討すること。

### ②予防に重点をおいた健康づくりの推進

- \* 各種がん検診や生活習慣病予防のために健康診断の受診率を上げるための目標設定とその実行計画を策定すること。特に国保加入者の特定検診を促す制度の導入を検討すること。
- \* がんや人工透析など高額な医療費負担が懸念される疾病を予防するための保健活動を官民の医療機関と連携して、実績をあげている尼崎市など先進市の事例を研究して導入すること。

### ③地域医療の拡充

- \* リハビリテーション病院及び医療センターの新病院の建設に関しては、過大で過剰な設備投資にならないように、公立病院の役割・機能を明確にするとともに、PPPの活用で最大限民間活力を導入して大幅なコスト圧縮を図ること。

## (7) 戦略7：郷土に誇り・活力あふれるまち

### ① 活力あふれるまちを支える人材の育成

\* 市内はもとより市外からも浜松でNPOを設立したり、社会的事業を起業する人材を支援する制度を導入すること。

### ② “音楽の都”に向けた挑戦と市民主体の文化芸術活動の推進

\* 音楽を始め文芸やデザインなど地域の文化芸術事業の企画・運営の機能を行政から外郭団体や市民団体及び大学など学術機関に移管し、専門的人材による事業展開をはかること。  
\* ユネスコ創造都市ネットワークへの登録の意義や“音楽の都”にどう生かしていくのかなどを、広く市民に示して市民の共感と参画を得られるような取り組みをすること。

### ③ 浜名湖を中心とした観光交流

\* 湖西市との連携をより密にして、さらに三遠南信地域の自治体の協力を求めるとともに、県に対して財政も含めて観光・インフラ整備など総合的な支援を強力に要請すること。  
\* マリンスポーツやマリンレジャーのメッカを目指して、漁業やマリナーなど関係者との連携して、インフラ整備や世界や全国レベルのイベント誘致などのプロモーション活動を推進する。

### ④ 多文化共生社会の実現

\* 定住外国人の就労・福祉・教育などの課題を一体で取組む社会統合政策を推進する組織体制を構築すること。併せて国際課と多文化共生センター及び国際交流協会の各々の役割と機能を整理して、市民や外国人からわかり易く利用しやすくすること。  
\* 外国人の児童・生徒の教育支援については、家庭や学校現場の実態調査を行った上で、個々の事情に合った支援ができるように人材の確保やカリキュラムの整備を図ること。

### ⑤ 世界に発信するシティープロモーションの推進

\* 世界の市場で事業展開する浜松の企業やアーティストの世界的なネットワークと連携して、浜松市の自然環境や歴史・史跡、文化活動、都市の特徴や魅力を情報発信すること。  
\* “バイクのふるさと”を浜松を特徴づける都市文化として、国内はもとより海外にも情報発信して、ライダーミーティングを誘致したり、オートバイツーリズムを売り込んでいくこと。

## 2. 都市経営の考え方について

### (1) 市民協働によるまちづくり

- \* 市民協働活動モデルとなるリーディング事業を立ち上げたり、社会的企業でのインターン制度などを誘導するなど、受け皿となるNPOの育成や人材の発掘に取り組むこと。
- \* 市民協働の必要性を、財政構造の変化や地方分権の視点から市民の理解を得られるよう、また市民協働の具体的な取組み内容が実感できるような、オープンで明解な情報を提供すること。

### (2) 戦略計画を核とした経営のしくみ

- \* 行政経営計画の進捗管理に関しては、自己評価の目標設定の妥当性や評価基準の精度向上など改善に努め、PDCAを確実に機能させること。併せて、外部評価の対象を拡大し最終的には全ての事務事業の見直しや改廃の方向性を検討すること。
- \* 戦略計画2012の政策・事業の進捗管理については、部門目標及び職員の業務目標に連動させて半期ごとに評価と見直しを確実行い、事務事業の精度と業務の生産性を向上させること。
- \* 職員の総労働時間の管理を個人レベルで徹底するとともに、組織横断的に機動的な要員配置と職務の生産性を高める業務改善の取り組みを促進すること。併せて職能や業績を処遇や異動に反映させる人事制度の抜本的な改革を早急に実施すること。

### (3) 本庁と区役所のありかた

- \* 本庁と区役所のあり方については、住民や地域に最も身近な行政サービスセンターの機能を強化することも含めて、住民サービスの質的向上と行財政改革の徹底が両立できる仕組みを市民に提示すること。併せて自動交付機の利用拡大やICTの利活用の制度も検討すること。
- \* 区割りの見直しについては、行革審の提言をはじめ、産業、文化、環境、教育など各種市民団体の意見を集め、一方で人口規模や都市環境が類似する政令指定都市の実状を調査研究し、それらの経緯と結果を詳細に情報公開し、浜松市の地域特性に合致した案を提示すること。

### (4) 更なる行財政改革の推進

- \* 試行実施したものも含め、改めて全事務事業を対象に「事業仕分け」の完全実施を実現させ、廃止、再編・整理統合、改善の評価を厳格に適用し、行政経営計画で確実に実行すること。
- \* ファシリティーマネジメントの取組みについては、全ての公共・インフラ施設の使用実態や必要経費、老朽化の程度及び更新時期や改修コストの見込みなど全体像を明らかにし、市民に分かり易い方法で情報公開して、公共施設の再編統合や有効活用についての理解を促すこと。
- \* 補助金の見直しについては、企業立地など政策的なものと団体運営・イベント事業とが混同することのないように名称等も含めて整理し、団体運営やイベント事業については、公益性や行政事務・運営への関与度合などを精査して適正な運用を行うこと。
- \* 電子自治体の推進については、システム導入及び運用のコストを明らかにして、コストに見合う効果がでるよう、全ての事務でのIT化を促進すること。また、自動交付機の利用者拡大を進めるとともに、行政サービスのIT化を拡大していく施策を進めること。
- \* 民間活力の導入については、アウトソーシングのみならず、全ての公共サービスへ民間企業NPOや市民団体などが参入できるようなPPPの活用を図ること。